

陳 情 文 書 表

受理番号	陳情 8 第 1 1 号	受理年月日	令和 8 年 2 月 3 日
件 名	統合新校在籍生徒の通学負担解消のために具体的な対策を講ずることを求める陳情		
<p>【陳情の趣旨】</p> <p>統合新校開校後の早い時期（令和 7 年 7 月）に、目黒南中と目黒西中の 2、3 年生を対象に意見収集のアンケートが教育委員会によって実施されました。素早い対応に敬意を表します。</p> <p>「統合アンケート実施結果概要」によると、回答者は、在籍者中、南中：約 83%、西中：約 79% でした。実施日にその場になかった生徒がかなりの人数に上ることが窺われます。そして、大方の生徒が統合を受け入れているものの、少なからぬ生徒（南中：約 23%、西中：約 13%）が「気になること」を訴えていることが読み取れます。</p> <p>（文中の数字は「統合アンケート実施結果概要」による）</p> <p>その後、不参加生徒（不登校生を含む）の思いをどのように把握したのか疑問は残りますが、当面、表明された「気になること」＝【不都合】に向き合っていくことが、アンケート実施の意義だと思います。ちなみに、この回答者の元の在籍校は、南中では、旧七中生 63% 旧九中生 35%、西中では、旧八中生 67% 旧十一中生 31% となります。仮校舎である旧七中・旧八中の出身者が圧倒的多数であることと、アンケート結果は無縁ではないことも考慮すべきでしょう。</p> <p>新校舎の建設完了と移転の時期が当初の計画と異なってきている今、仮校舎で生活する生徒の【不都合】の解消が、喫緊の課題として真摯に向き合うべきものと、教育委員会ははじめ、学校教育に責任を負う方々は痛感していらっしゃるでしょう。このまま、【不都合】を押し付け続けることは、子どもたちの声を無視すること、ひいては統合校に対する親和性を減少させることになりかねません。公立学校は、たとえ少数でも子どもの【不都合】の声に応えて欲しいです。</p> <p>すでに対策をお考えかもしれませんが、まずは、最も「気になる」の声が多い、通学の問題を取り上げ、「学校が遠い」「夏の通学は辛い」「時間がかかる」という、学校現場の工夫や努力では解消できない【不都合】の解消を要望します。</p> <p>通学路について、南中では 25%（56 人）が「気になる」と回答しながら、バスを利用しているのは 2 人、西中では、29%（51 人）が「気になる」と回答しながら、電車・バス・区の車輛を利用しているのは 10 人というのが現実です。通学負担支援対象者に当てはまらないからでしょう。</p> <p>そこで、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目黒南中・目黒西中で、公共交通機関利用への交通費補助対象者を拡大すること。 2 目黒西中で、区の車輛の利用地域を拡大すること（適切な公共交通機関が存在しない地域がある）。 <p>の二点を要望します。</p> <p>他校との「公平性」が実行を阻む傾向がありますが、アンケートで明らかになった子どもの【不都合】は統合によって生じたもので、公平性を問うのは筋違い</p>			

です。また、他校と比べて、地形、公共交通機関の存否の不公平性は明らかで、統合を実施した目黒区が対策にあたってくださることが、アンケート実施の意義ではないでしょうか。通学が「気になる」と回答した子一人残らずに【不都合】でない通学路を保障して欲しいです。それが通学の安全の保障になるでしょう。

以上の理由で、以下の陳情をいたします。

【陳情事項】

- 1 統合新校二校の在籍生徒を対象に、公共交通機関利用の範囲を拡大すること。
- 2 目黒西中生を対象に、区の車輛利用の範囲を拡大すること。